

-大学院歯学独立研究科-
第 92 回 中 間 発 表 会 プ ロ グ ラ ム

大学院学生等が、これまでの研究成果を発表します。
どなたでも聴講できますので、多数の参加をお待ちしております (聴講申込不要)

場 所 : 実習館 2 階 総合歯科医学研究所セミナー室

日 時 : 2018 年 5 月 30 日 (水) 17 時 25 分 開会

2018 年 5 月 30 日 (水) 17 時 25 分 開会

No.	発表区分・予定時間	演題名・発表者	審査委員
	17:25	開会挨拶 高橋研究科長	
1	[中間発表] 17:30~18:00 司会: 音琴教授	「ハーブ系生薬含有歯磨剤様ペーストの歯肉炎症に対する臨床的効果」 加藤直美 4年 健康増進口腔科学講座 口腔健康分析学	主査: 吉 成 教授 副査: 十 川 教授 芳 澤 教授

発表内容の要旨(課程博士)
Abstract of Presented Research (For the Doctoral Course)

学籍番号 Student ID No.	ID#G 01406	入学年 Entrance Year	2014 年 Year
氏名 Name in Full	加藤直美		
専攻分野 Major Field	健康増進口腔科学講座		
主指導教員 Chief Academic Advisor	音琴淳一		
発表会区分 Type of Meeting	中間発表会 Midterm Meeting / Graduate school research meeting presentation /The Matsumoto Dental University Society		
演題名 / Title of Presentation			
ハーブ系生薬含有歯磨剤様ペーストの歯肉炎症に対する臨床的効果 Effects of Paste like Toothpaste including Herb on Gingivitis			
発表要旨 / Abstract			
<p>緒言 :歯肉炎はプラークコントロールを行うことにより消退することは周知の事実であるが、患者自身のプラークコントロールには限界があり、歯科医院での PMTC あるいは補助的清掃用具を用いることが一般的である。一方では抗菌剤を用いる方法も用いられているものの高齢化社会の現在、長期使用による耐性菌出現も危惧されている。そこで天然生薬としてハーブ系歯磨剤様ペーストを作成し、その臨床効果を検討した。</p> <p>方法:</p> <p>1)研究の方法</p> <p>(1) 歯磨剤の使用法:1日2回(起床時、就寝前) 専用ハブラシを用いて、1回約 5g の歯磨剤を当該部位に塗布する。 使用期間は4週間とする。</p> <p>① 歯磨剤の種類 A:2%グレープフルーツシード+基材 ② 歯磨剤の種類 B:0.2%グレープフルーツシード+基材 ③ 歯磨剤の種類 C:基材のみ</p> <p>(2) 検査項目 使用直前、使用1週間後、4週間後に以下の有効性と安全性の評価を実施する。 使用前には PMTC を行うことでプラークフリーとする。 評価は以下に示す表1の通りに行う。</p> <p>① 背景調査 臨床試験責任医師等は、同意の得られた被験者に対して投薬開始日に以下の項目について調査し、報告書に記入する。 ・同意取得日・被験者識別コード・生年月日・性別・入院・外来・合併症既往歴評価および症状</p> <p>②口腔内写真: ③X線写真 ④歯周チャート(PPD, CAL, BOP、動揺度) ⑤細菌学的検査(菌数と運動性菌の割合)</p> <p>(3)分析方法 :使用直前と使用後のデータを比較して抗菌薬含有歯磨剤の炎症抑制効果を検証 する。とくに臨床データ(口腔内写真、X線写真、歯周チャート、有害事象)と細菌学的データ(細菌学的検査、血液検査)に分けて統計学的分析を行う。</p> <p>研究対象者の選定方針 全身疾患を有さない歯肉炎患者とする 以上の方法については、松本歯科大学倫理委員会の承認のもと(承認番号 225)で行っている</p> <p>結果および考察</p> <p>0)歯磨剤 A を使用した被験者は10名、歯磨剤 B は8名、歯磨剤 C は8名であった</p> <p>1)プラーク付着量については1週目で全ての被験者ともに有意に減少した。</p> <p>2)歯肉炎については歯磨剤 A と B ともに1週目から歯肉炎が有意に減少した。</p> <p>3)PD については全ての被験者ともに有意な変化が認められなかった。 細菌学的検査については当初予定した手法による結果が十分に得られなかったため、現在再度検討を行っている。</p>			